

令和2年度
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和2年3月2日

三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 広西大学 蔡艶艶
2. 受入研究者 所属・職・氏名 地域人材教育開発機構・教授・福岡昌子
3. 招へい期間 令和 元 年 7 月 16 日 ~ 令和 元 年 8 月 15 日
(1) 事業概要 本学における継続的な留学生の増加を目指し、学期外の長期休暇を使って日本語教育教員を1か月派遣できる提携校から毎年若手教員を1名受け入れ、国際交流センター・地域人材教育開発機構と三重大学協定校において、日本語教育を軸とした相互交流促進事業を行った。[2019(2020)年 7月16日(火)~8月15日(木)] 下記が本事業の目的である。 1. 海外の協定校との相互交流と連携強化 2. 本学への留学生の継続的な増加 3. 海外の若手日本語教員の日本語・日本語指導力のレベルアップ(海外における若手日本語教育者のための再教育の場の拠点化を図る) 4. 海外の日本語教育指導の状況について情報交換 5. 現在の中国社会の現状や中国の日本語教育事情の理解 (2) 事業の背景・これまでの実績 1. 事業の背景(i): 本学への交換留学生の送り出しが、近年ストップしている協定校がある。受入れ再開は可能だろうか。 例: ノースカロライナ大学ウィルミントン校(アメリカ)、タスマニア大学(オーストラリア)、スラナリー大学(タイ)、リヨン大学(フランス)、ハバロフスク国立経済法律大学(ロシア)、梨花女子大学(韓国)他。 2. 事業の背景(ii): 毎回日本語レベルが高い学生を送り出す大学と日本語レベルが低い学生を送り出す大学がある。日本語レベルのUPに貢献できないか。 3. これまでの実績: 広西大学との協定が締結されて以降、毎年多くの留学生を受け入れている。 2011年には、広西大学教員の張貴生氏を1年受け入れ、学術的な研究交流も行われた。 中国からの留学生は近年留学生数が減少傾向にあるが、今後も本学への留学生の継続的

な増加と相互交流の促進を目的とする。下記が国際交流センターにおける主な実績である。

- ① 毎年多くの留学生を受け入れている（1999年以降14名の交換留学生を受け入れている）。
- ② 国際交流センターでのサマースクール実施時（2007、2008）においても、複数の留学生が参加。
- ③ 2011年には、広西大学教員の張貴生氏を1年受け入れ、学術的な研究交流も行われた。
- ④ 近年、Tri-Uにおける研究交流が行われている。

(3) 事業実施結果

1. 招聘教員の主な業務

- ① 日本語教育科目への参画：国際交流センターのクラス指導の補助業務や授業見学など。
- ② 国際交流センター・地域人材教育開発機構における行事への参加・引率：日本語日本文化研修生修了式や地域との国際交流講演会への参加
- ③ ワークショップ開催：「現在の中国を知る（中国の語学教育、キャッシュレス化、一帯一路計画について）」（2019年8月7日（水）9・10限「留学生と学ぶ日本」視聴覚室）
- ⑤ 本学実施による日本語レベル判定試験問題の作成の補助業務

2. 実施結果概要

本学の日本語教育の状況について協定校教員と相互に理解を深め、近年中国での日本語教育がどのように行われているか、日本語教育指導の状況について情報交換を行うことができた。また、日本語や日本語指導方法についての教員のブラッシュアップに貢献できた。さらに、現在の中国社会についての理解や中国における日本語教育事情を理解するワークショップでは、留学生、日本人学生、市民など、合計55名の参加があり、大変白熱したディスカッションとなり、有意義なワークショップとなった。

(4) 事業の意義

1. 授業や講演、行事に参加していただき、本学の日本語教育の現場を協定校の教員に知ってもらえてよかった。
2. 海外の協定校における日本語教育の状況が把握できた。
3. 招聘教員によるワークショップを通じて、現在の中国の今を、日本人学生に知ってもらえた。
4. 留学生や日本人学生、市民を交えたワークショップにおけるディスカッションを通して、文化交流の一機会となった。
5. 授業見学や教材紹介を通して、今後の海外協定校の日本語教育指導力の向上に貢献できたのではないかと。
6. 協定校教員との意見交換や交流を行って、連携強化に貢献できた。
7. 留学生の受入れ拡大を継続して支援できる事業である。

(5) 事業の発展性

今後も本事業を継続することによって、海外の協定校との相互交流と連携強化や本学への留学生の継続的な増加が見込まれる。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

本学への留学生の継続的な増加と海外協定校との相互交流の促進・連携強化に貢献できた。

(7) その他



三重大学国際交流事業経費助成：外国人教員短期招聘プログラム 三重大学協定校との日本語教育を軸とした相互交流促進事業

(1) 事業概要

本学における継続的な留学生の増加を目指し、学期外の長期休暇を使って日本語教育教員を1か月派遣できる海外協定校から若手教員を1名受け入れ、国際交流センター・地域人材教育開発機構と三重大学協定校において、日本語教育を軸とした相互交流促進事業を行う。[2019(2020)年 7月16日(火)～8月15日(木)]

目的としては、①海外の協定校との相互交流と連携強化、②本学への留学生の継続的な増加、③海外の若手日本語教員の日本語・日本語指導力のレベルアップ(海外における若手日本語教育者のための再教育の場の拠点化を図る)、④海外の日本語教育指導の状況について情報交換、⑤現在の中国社会の現状や中国の日本語教育事情の理解、である。

(2) 実施内容

招聘教員の主な業務は、①日本語教育科目への参画：国際交流センターのクラス指導の補助業務や授業見学、②国際交流センター・地域人材教育開発機構における行事への参加・引率：日本語日本文化研修生修了式や地域との国際交流講演会への参加)、③ワークショップ開催(留学生・日本人学生・市民によるディカッションに主体を置くワークショップ)：「現在の中国を知る(中国の語学教育、キャッシュレス化、一帯一路計画について)」(2019年8月7日(水)9・10限「留学生と学ぶ日本」視聴覚室)、④本学実施による日本語レベル判定試験問題の作成の補助業務である。

(3) 実施結果・意義

本事業を実施した結果、本学の日本語教育の状況について協定校の教員と相互に理解を深め、近年中国での日本語教育がどのように行われているか、日本語教育指導の状況について情報交換を行うことができた。また、日本語や日本語指導方法についての教員のブラッシュアップに貢献できた。さらに、現在の中国社会についての理解や中国における日本語教育事情を理解するワークショップでは、留学生、日本人学生、市民など、合計55名の参加があり、大変白熱したディスカッションとなり、有意義なワークショップとなった。

今後も、本事業を継続実施し、協定校教員との意見交換や交流を行って、協定校との連携強化および留学生の受入れ拡大に貢献していきたい。